

栃木県茂木町

住所	〒321-3598 栃木県芳賀郡茂木町茂木155
町長	古口 達也
HP	https://www.town.motegi.tochigi.jp/
バイオマス産業都市 選定年度	2015年度
バイオマス産業都市構想	https://www.jora.jp/wp-content/uploads/2021/02/motegi_k.pdf
担当部署	農林課土づくり推進係
連絡先 TEL	0 2 8 5 - 6 3 - 5 6 2 2
連絡先 FAX	0 2 8 5 - 6 3 - 5 6 2 2
連絡先 E-mail	nourinn@town.motegi.tochigi.jp



事業化プロジェクトの概要

名称	パワーアップ美土里館プロジェクト	
実施主体	栃木県茂木町	
使用する技術	堆肥化・飼料化	
実施体制	プラントメーカー	(美土里たい肥) (株)岡田製作所 (美土里竹粉) 志賀機械工業(株)
	設計・施工業者	(美土里たい肥) (株)岡田製作所など (美土里竹粉) (株)グリーンネット・エンジニアリング
概要 (計画)	バイオマス原料	牛ふん、生ごみ、枯葉、もみがら、おがくず、竹
	原料投入量(t/年)	4, 4 4 1 t/年
	堆肥化の場合は製造量(t/年)	(美土里たい肥) 1, 1 1 7 t/年 (美土里竹粉) 1 0 t/年

バイオマス事業の進捗状況

事業化プロジェクト	進捗状況
1. 堆肥製造プロジェクト (美土里たい肥)	牛ふん、生ごみ、枯葉、もみがら、おがくずの受入れを行っているが、原料及び生産量も計画量を超えているものの、余ることなく販売できている。 2019年度実績 原料投入量4,489t 堆肥製造量1,251 t
2. 堆肥製造・飼料化プロジェクト (美土里竹粉)	公共による竹伐採事業や町民搬入で出た竹を微粉碎し、乳酸発酵させ「美土里竹粉」を土壌改良材及び飼料として園芸農家や養鶏農家へ供給するほか、粗粉碎したフレコン詰め未発酵竹粉を製造し、農業資材として農家や事業所へ供給している。 2019年度実績 竹搬入量36t 竹粉製造量19 t

イニシャルコスト（千円）

事業化プロジェクト	1. 堆肥製造プロジェクト	2. 堆肥製造・飼料化プロジェクト
建設費・設備費等	638,000	10.9

ランニングコスト（千円/年）

事業化プロジェクト	堆肥製造プロジェクト	堆肥製造・飼料化プロジェクト
人件費	21,500（8名）	
原料等購入費	6,250(枯葉、間伐材)	0（竹は無料受入）
ユーティリティ費	6,200（光熱水費、電話代）	
修繕費	14,700（プラント、車両）	

事業の経営状況

事業化プロジェクト	計画との進捗比較※	事業実施による効果 （地域波及効果の発現状況）
		効果
1. 堆肥製造プロジェクト	A 計画以上に進捗している	廃棄物受入れによるごみの減量化 落ち葉・間伐材（おがくず）の買取りによる里山保全
2. 堆肥製造・飼料化プロジェクト	A 計画以上に進捗している	荒廃竹林の解消及び竹の利活用

※A)計画以上に進捗している B)ほぼ計画通り C)計画より遅れている D)進んでいない

成功要因

事業化プロジェクト名	成功要因
1.堆肥製造プロジェクト 2.堆肥製造・飼料化プロジェクト	農家や地域住民と相談し協力し合いながら事業を進めることで、順調に原材料の調達ができ、堆肥の供給のみならず、農産物生産ブランド化（美土里たい肥シール）まで行うことで地域一体となった取組みができている。 地域住民からも、廃棄物処理や堆肥供給など循環型社会の取組みの核として不可欠な施設として認識されている

波及効果（雇用増加、CO2削減効果等）

事業化プロジェクト名	成功要因
1.堆肥製造プロジェクト 2.堆肥製造・飼料化プロジェクト	施設運営のため、8名の雇用が生まれている。 生ごみや剪定枝などのごみ処理負担金の軽減や焼却によるCO2排出の削減にも寄与している。 枯葉・間伐材の買取りや竹林伐採によって里山の景観や機能保全に努め、イノシシ等の獣害の抑制や土砂災害の抑制にもつながっている。 美土里シール（町独自の認証制度）により生産野菜のブランド化を図り、耕畜連携の取組を強化している。

運営上の課題

事業化プロジェクト	運営上の課題
堆肥製造プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">・施設の老朽化 開設から19年が経過しており、設備・車両の老朽化が進んでいるため、故障による稼働停止が発生している。設備等の更新を計画的に行い、運営に支障がないよう進める必要がある。・酪農家の廃業による牛ふん量の減少 高齢化や後継者不足により町内酪農家の件数が減り、それに伴い牛ふん量も減少してきている。広域的な収集も含めて検討し、牛ふん量の確保を図る必要がある。